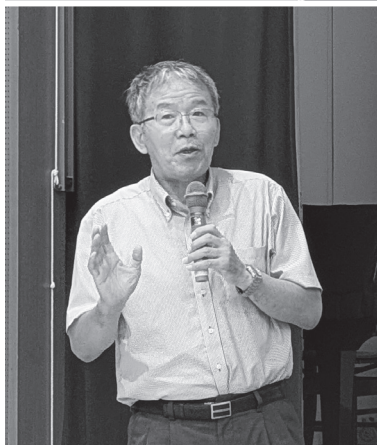


オンラインカジノの実態と恐ろしさ？ ～和歌山IRの教訓、大阪IRの展望 そして第2幕への動きは？

静岡大学名誉教授 鳥 畑 与 一 氏



講演する鳥畑与一氏

9月28日、和歌山南コミュニティセンターで行われた「住民自治を進める会」の「第4回市民参加のまちづくりを考える集い」で、国際金融論が専門の鳥畑与一氏によるオンラインギャンブルの実態とIR（統合型リゾート）についての講演を紹介します。
(文責：太前)

久しぶりの和歌山で、2022年に呼んでいただいて「やっぱり和歌山は無理ですよ」というお話をして、その後、県議会で否決されました。その後の長崎IRでも「いくらなんでもあれを国は採用しません」と話したのですが、採用されずに、これも間違っていたかなとホッとしております。

IRカジノ推進の振り返り

日本でカジノ作ろうと、13年の暮れに推進法を出すという動きがあつて、翌年の春に全国的にカジノ反対の連絡会ができました。いろいろ反対運動をしましたが、亡き安倍

首相は熱心に進められて、16年暮れにIR推進法、18年7月にIR整備法が国会で通りまして、21年10月に各地域でIRの募集が始まりました。

国の方針は、IR統合型リゾートを3つまで作るということです。横濱市長選で反対の市長が誕生して、それから有力なカジノ企業が撤退をして、蓋を開けると、手を挙げたのが大阪と長崎だけだったのです。長崎はカジノ企業も非常に怪しげなところで、それを国は採用しなかったわけです。大阪では今年の4月に建設が開始されまして、31年開業を目指すというので、この10月に万博が終われば、そちらの建設が本格化するわけです。

ギャンブル市場の変貌、オンラインギャンブルの成長

大阪IRがうまくいくのか、31年に開業した時に、世界中から大阪に外国観光客、とりわけ富裕層の人が来るのかといった時に、今日の話になるのですが、世界のギャンブル

市場が今非常に大きく変わっています。一言で言えば、オンラインギャンブルが急速に広がっています。地上型のカジノに、わざわざ金や時間を使って足を運んでギャンブルしなくても、手元のパソコンやスマホで、ちよつと空いた時間でギャンブルができる時代になっています。

まだ、私たちのような年寄り、実際にギャンブル場に慣れ親しんだ人は違いますが、若者は最初からスマホのゲームの世界で育つてきて、そのゲームの延長線でギャンブルをしても何の違和感もないわけです。ヨーロッパとかアメリカで若者を中心にゲームからギャンブルへという流れが急速に広がっています。特にスポーツ賭博がものすごく害悪を發揮しているのです。今、アメリカで、オンラインのスポーツ賭博が急速に広がっているというので、アメリカの連邦議会とか州の議会では、いろんな公聴会が開かれています。

日本のテレビ局がオンラインギャンブルの怖さの報道をしました。依存症で苦しんでいる人が、お風呂に入っている時もやめられないという証言をする。お風呂に入りながらギャンブルをする。要する

目次

オンラインカジノの実態と恐ろしさ？ ～和歌山IRの教訓、大阪IRの展望 そして第2幕への動きは？ 静岡大学名誉教授 鳥畑 与一氏……………	1
「自治体財政をマスターする」② 立命館大学政策科学部教授、博士(政策科学) 森 裕之氏……………	4
廃村寸前の移住!! 先人の思いや文化を引き継ぎこの地で生きる 高野町杖ヶ藪 宇奈手一家(毅、侑子、風介)……………	8

わかやま住民と自治

発行／和歌山県地域・自治体問題研究所
和歌山市太田2丁目14-9 太田ビル203号
TEL・FAX 073-488-3127
jichiken@crux.ocn.ne.jp 2025年11月号



警察庁・消費者庁のポスター

Rに来たお客
然、地上型で
わけです。当
業化している
ギャンブル企
にオンライン
GMは、すで
GMは、すで
込んでくるM
しか提供でき
ません。乗り
ません。乗り
込んでくるM
GMは、すで
GMは、すで
込んでくるM

Rに来たお客
然、地上型で
わけです。当
業化している
ギャンブル企
にオンライン
GMは、すで
GMは、すで
込んでくるM
しか提供でき
ません。乗り
ません。乗り
込んでくるM
GMは、すで
GMは、すで
込んでくるM

Rに来たお客
然、地上型で
わけです。当
業化している
ギャンブル企
にオンライン
GMは、すで
GMは、すで
込んでくるM
しか提供でき
ません。乗り
ません。乗り
込んでくるM
GMは、すで
GMは、すで
込んでくるM

Rに来たお客
然、地上型で
わけです。当
業化している
ギャンブル企
にオンライン
GMは、すで
GMは、すで
込んでくるM
しか提供でき
ません。乗り
ません。乗り
込んでくるM
GMは、すで
GMは、すで
込んでくるM

従来の地上型の大阪IRで行われるようなギャンブルよりも実はもっと怖い。ギャンブル依存症の発症率が2、3倍高いと言われるものが世界中で広がっていて、ギャンブル市場が大きく変わってきています。

ヨッピンゲモール一体のリゾートですと言った企業は、どうしているかと言えば、オンラインカジノを自分たちでカジノの中に統合しているのです。つまりMG Mは、ヨーロッパのオンラインカジノ企業と提携して、ベットMG Mという子会社を作り、さらに去年は、MG Mの内部にオンラインカジノ部門を作りました。

オンラインギャンブルのブラック&灰色市場の拡張
もう一つ怖いのは、オンラインギャンブルのブラックな市場、どこの国のライセンスも持っていない怪しげなオンラインギャンブル企業が日本語サイトを立ち上げて日本人をターゲットにしてギャンブルに誘導しています。ちよつとまともなのは灰色と書いていますが、海外のマルタとかキュラソーとかいろんな国や地域がライセンスを発行してライセンス料の手数料で稼ぐ経済政策を進めています。

和歌山IRの撤退とくすぶる火種
先ほどまだまだ火種は残っているという話がありました。和歌山はどうなのか。22年の4月、県議会は小差で反対派が上回り否決しました。4200億円の投資が失われたと当時の知事さんが八つ当たりしているようなメッセージを出しています。5月10日です。将来またIRを構想するチャンスがあれば生きてくると思います。それまでの県の取り組みが。また、皆で力を合わせて次なるチャンスを追求したいのではないのでしょうか。和歌山県が未来永劫IRを諦めてしまう必要もありません。こんなメッセージを書き連ねていました。当時、選定されていたクレアベストも同じように声明を出して、和歌山のオフィスは一時閉鎖し

ますが、引き続き東京都内のオフィスは維持して今後も日本における開発機会を模索してまいりますと書いていました。クレアベストはまだ東京オフィスを持しているのか、ネットで登記状況を見ると、まだ生きています。7月末で会社としては存在が維持されているわけです。クレアベストは投資ファンドなのですが、和歌山でダメになった後はアメリカのニューハンプシャー州で小規模なカジノに投資しています。と、とりあえず生きています。

政府・観光庁の動き

◆「賭博罪」について刑法（明治40年法律第45号）の規定

第185条 賭博をした者は、50万円以下の罰金又は科料に処する。ただし、一時の娯楽に供する物を賭けたにとどまるときは、この限りでない。

第186条 常習として賭博をした者は、3年以下の拘禁刑に処する。2賭博場を開張し、又は博徒を結合して利益を図った者は、3年以上5年以下の拘禁刑に処する。

かもしれません。

日本のギャンブル規制の脆弱性

日本ではこの数年間、オンラインギャンブルの被害者、被害が顕在化してきました。多分一番注目されたのは22年4月。山口県阿部町で、町が誤って送金した4630万円をある方がオンラインギャンブルで2週間で使いきりました。

それで日本はどういう対応をしてきたかと言えば、ほとんど野放しなのです。パチンコとか公営ギャンブルだとかギャンブルで苦しんでいる人たちの救済や被害を防ぐこと

について、日本政府は冷たい対応だったのです。

ようやく日本でIRカジノを作り、合法化するというの出来たのがギャンブル依存症対策基本法ですが、これは、地上型のカジノを想定した法律の枠組みで、オンラインギャンブルは想定していません。それが近年オンラインギャンブル、特に、公営ギャンブルのオンライン化や海外の違法サイトにアクセスしての被害も急速に増えている。それを無視できなくなつて、22年3月の見直しで、オンラインカジノに関わる賭博事犯の取り締まり強化が明記されました。そこから警察庁が取り締まりを始めたのです。最初は実績が上がりましたが、だんだんノウハウを蓄積して近年少しずつ成果が上がりはじめています。

世界最初のオンラインカジノ企業は96年に誕生し、その年に日本向けの日本語サイトができたらしいのです。実は13年に、当時民主党の議員さんが国会で趣意質問書という形で質問しました。「近年オンラインギャンブルが広がってきて、被害が拡大している。この違法性を明確にして対応しなければいけないのじゃないのか、首相どう思います

か」。安倍首相は、刑法で一般的には違法ですが、オンラインギャンブルは、個々の個別事犯なので、違法度は明確に言えません。要するにケースバイケースだからはっきり言えませんと回答したのです。違法ですと明確に政府が言ったのは22年6月の岸田答弁が初めてなのです。

「無規制」「灰色市場」として扱われる日本市場

オンラインギャンブルのサイト、私が調べた時には150以上のサイトが日本語でアクセスできました。そこではどう説明しているか、私たちは合法です。海外でライセンスを得ているので合法で安心ですとアピールしているのです。ちよつと良心的なところは、でも日本では違法とは言えないけれども、シロとも言い切れないなみたいな説明をしています。

22年の岸田答弁でようやく違法ですと言って、その秋にポスターを配り始めたわけですね。日本国内ではオンラインカジノに接続して賭博を行うことは犯罪です。刑法185条、186条でそれぞれ罪が規定をされていますということだったのです。警察庁の調査でだいたい2

00万人ぐらいオンラインギャンブルの常習者がいて、年間1兆2000億円ぐらい賭けていた事実が分かりました。

依存症者に依存するビジネスモデル

オンラインギャンブルは、自分で時間とか金額とかコントロールできなくなり、依存状態になってしまふし、企業側はそういう状態に追い込んでいくのです。

水原一平氏の場合です。この数字が出てきて、なるほどと思いました。オンラインギャンブル、スポーツ賭博ですけど、2年間で賭け回数が1万9000回、1日平均25回、最初は多分10ドルぐらいから始めたと思うのです。そのうち感覚が麻痺して、大谷翔平さんの口座からお金を引き出してしまふ。延べ3億2520万ドルの勝ち負けを繰り返して最後は4060万ドル負けた状態で捕まった。ポケットからスマホを出したらそこが賭博場に変わる。水原さんも隙間時間を使ってアクセスしてあれだけギャンブルを続けたのです。怖いのは、オンラインギャンブルにアクセスして賭けると、そのデータが全部集積されて、情報を分析する会社に

回されて、プロファイリング、分析がされるのです。これはイギリス議会の調査では、サイトに37回ぐらい訪問すると、関連企業44企業に共有されて、いろんな分析がされる。

ギャンブルにそろそろ飽きてきた時期に、新しいギャンブルを紹介したり負けが続いてきたら、無料ボーナスをくれる。AIがこういう分析と対応をするわけです。

ゲームの世界でお客さんのテクニク、習熟度に合わせてゲームの難度を変えるのが一般的になっています。初心者には優しいパターンで勝たせて、強くなると難度を上げていく。ギャンブルも初心者には勝たせて熱くならせて、はまった状態に誘導して最後は負けて終わらせる。このダイナミックに勝率を操作して客を熱くさせるテクニクがAIの導入で可能になった。これはアルゴリズム、企業秘密なので、業界でこういうことが言われているというだけで、証拠は出しようがないのですが、そういう世界が生まれています。

日本を拠点にしたカジノ企業は、オンラインを含めて日本人をギャンブル漬けにしていく企業なのだという事です。

「自治体財政をマスターする」②

立命館大学政策科学部教授、博士（政策科学） 森 裕 之 氏

先月号に引き続き、森裕之氏の地方財政の講演を記事にさせていただきます。（文責：大前）

(4) 国庫支出金(補助金)と地方債

補助金というのは、事業がある国が半分出したるわ。残り半分は身銭を出しなさい。これが補助金です。

つぎに地方債。これは借金です。皆さん借金ってどう思いますか。良くないと思うか、良いと思うか。これは状況しだいです。借金自体が悪いのではない。

公共施設をつくるとき、借金したら早く施設が建つ。住民サービスが早く良くなりま

あります。それは、「時間の経過に伴う負担の公平さが保たれる」ということです。

たとえば学校を建てます。これはその時の税金か、過去の住民が貯めた基金を使いま

す。過去の税金で建てる場合、次の年度に引越してきて、子どもがいて学校へ行っ

ているのに、こいつタダで行っているのかとなりませんか。なりますね。すると不公平が起

こる。そういう不公平を起したらあかんで借金でやるわけです。なぜなら借金の負担というのは、毎年毎年返済

講演する森裕之氏

の瞬間から返済に参加するのです。それを言葉で書くとしたら「時間の経過に伴う負担の公平さ」となる。この2つがあれば、借金するのは合理的です。

やと言って、バーンと作ったらほとんどの自治体は首が回らなくなる。借金は合理的なものだが欠点もある。それを考えて、どういう事業について、どれくらい借金するか。それぞれの自治体が決めていかないとけない。

3. 財政と歳出の原則

次は歳出です。財政全体に関わる原則で最大のものは公平性です。

税を公平に集める。歳出は公平に使う。公平にと言う場合、2つの意味があります。1つは同じ立場の人を同じように扱う。同じ所得の人からは同じだけ税金を取るという事です。

もう一つは、違う立場の人には弱い立場の人を引き上げるという事です。税金は金持ちからたくさん取る。あまり所得のない人からはあまり取らない。

この公平性が担保されたら、あとは何にどれだけ使うかっていうのは、ただ2つの要件です。1つは住民のニーズに合った事業をしているか。ただし住民のニーズに合っていないのは一番大事なのですが、それを住民アンケートだけで

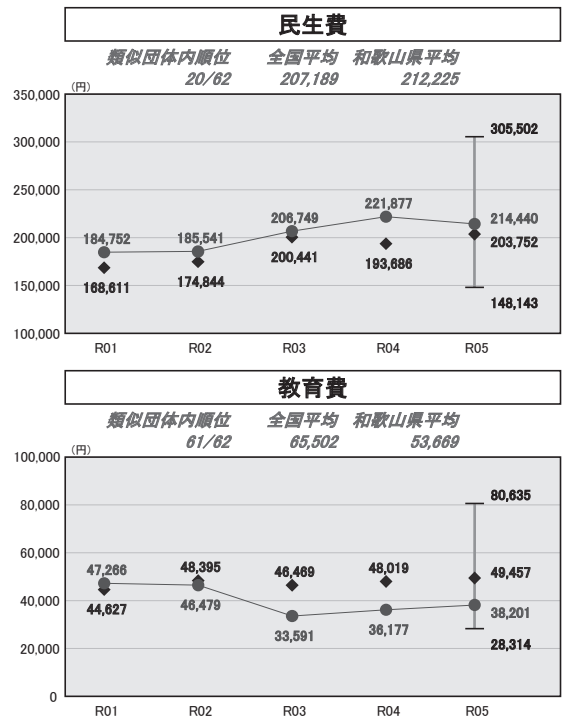
決めていいわけでもない。例えば、皆さんの地域にも、なんとか記念館とか、文化館、歴史館とかがあるでしょう。あれは住民が作ってくれと言ったと思いますか。そんな住民はあまりいない。それでも作らなアカンという行政としての判断があったわけです。

公立図書館は地域の歴史的な資料をきちんと保存して未来につなげるという役割がある。それは博物館もそうです。が、やっぱり町の大切な歴史とか文化とか先人の行ってきたことを未来へ引き継いでいくって、人間の本性にのっとったもののなのです。

でもアンケートに答えるとき、そこまで考える住民は少ない。日々忙しくて町の将来とか考えられない。そういう時には自治体に携わる者として矜持を持って判断していかないとアカン。だから少し広い目に捉えてほしいということです。

2つ目、何をやらんんか分かったら、次はなんぼ金をかければいいのかやね。出来るだけ安くかけた方がいい。例えば体育館を建てるとなると業者は100億円の費用を提示して来る。同じものに80億円提示してくれば100億円

和歌山市の目的別歳出（住民一人当たりのコスト）
（和歌山市の財政状況資料集より）



を出そうというのはない。80億円でいくわけ。なぜなら20億円余って、それまた別の事業に使えるから、住民サービスが増えるから。ここなので。費用が少ない、それは少し広い目で捉えることが必要になっていと思っています。

費用と言うのは本当に広い話なのです。例えば、どこも行政の職員は減っているでしょう。減っているから負担がかかって、途中で辞めていく優秀な人からどんどん辞めていく。だれが支えるのという状態にどこも陥っています。

包括的外部委託って聞いたことありますか。施設だつて指定管理しますよ。包括的外部委託と言うのは指定管理の場合、個別の施設ごとの指定管理者を行政が決めていくわけ、審査会とかで決めていく。包括的外部委託と言えばこの仕事をやめて、かわりにやってくれる業者を入れるわけです。単に中抜き業者ですわ。中抜きが増えているだけで金がかかるのです。

じゃあ金がかかって終わるかと言えば、実は職員の負担がすごく減っているのです。というのは、それぞれの施設に指定管理あるじゃないですか。

そこであんなに起こった時に全部個別の職員が対応するので。これがものすごく大変。公園で何かあったらそこへ行って、対応して帰ってきて、指定管理者とも対応する。これが多くなれば本来業務が来なくなる。そこで、中抜き業者を入れると細かい事は全部業者が対応してくれる。そのぶん金がかかりますが、職員はストレス抱えないで、本来業務ができるというプラスが発生します。

どっちがいいのかは、最終的には当局の判断になる。中抜きに金を出す値打ちはないと言えるのだが、いや、それで救われる職員、本来業務に力入れてくれる職員がいる。そこに理由があるのなら、中抜き業者に金を払って職員の時間を確保する。それで離職者を減らす。こういう判断もある。

(1) 目的別歳出

目的別歳出は簡単で、こういうものです。

議会費は、議会活動に要する経費で、もう説明もいらな。これは国では省庁別になっています。具体的に言うと、議会費、総務費。徴税とか選挙とか、これは総務省の所管です。民生費、これは厚生労働省の所管ですね。衛生費、これは元々厚生労働省なのです。農林水産業費、これは農林水産省の金を扱っている。商工費は経済産業省。土木費は国土交通省。消防費は消防庁つまり総務省です。教育費は文部科学省です。

つぎに和歌山市で見ると、民生費は全予算の半分です。これが良いとか悪いとかではない。赤字にならなかったらいいのです。民生費が80%でも構いません。赤字にならなかったら良い。

そこで和歌山市の歳出が多いのか少ないのか見たい。住民一人当たりの経費として見た時に、それぞれの費目は他の自治体に比べ多いか少ないかということです。自治体と比べると、自分と同じような自治体と比べないといけない。同じところとは人口規模が同じ、類似団体という意味です。

和歌山市の歳出で48%大体半分は福祉の経費だと、福祉で破綻するみたいな話だけど、類似団体と比べたら、中核市が60あって、その内20番目、それほど高いわけじゃない。借金の返済は、ちよつと多い。教育費はわりと少ない。

(2) 性質別歳出

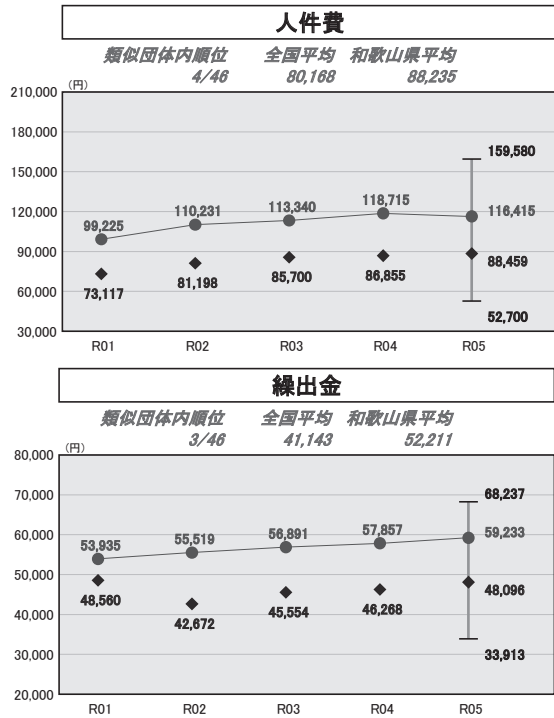
少ないのは理由がある。教育に熱心でないとか、子どもの数が少ないとか。

つぎに衛生費。これはゴミ処理ですけども、経費があまりにかかってない。こういう風にして、他と比べてうちの自治体が多いか少ないかというのが分かる。

もう一つが性質別歳出ですね。こつちの分類のほうが少し抽象度が高いです。例えば、うちの財政はどうなのかという場合に、人件費が多いとかいう議論が良くあるじゃないですか。これは目的別歳出でわかるのです。例えば人件費でも、議会事務局の職員もおれば、総務課の職員、福祉関係の職員、清掃関係、農林水産関係の職員もいる。だから人件費は全部に入り込んでいくわけなんです。しかし人件費まとめていくらやという場合、全部に入り込んで人件費を取り出して人件費はいくらとやらないといけないわけなんです。そういう形で分類したのが、性質別歳出。

人件費は職員の給料ですけども、退職金も含まれます。だから退職者が多い時にどつと人件費が膨らむわけ。その

田辺市の性質別歳出（住民一人当たりのコスト） （田辺市の財政状況資料集より）



とき何の備えもなかったら、他の経費を削らんとあかん。そういうことが起こらないように基金を積んでおく。

扶助費はさっきの民生費の一部で、主に現金で出しています。民間保育園に対して補助するのは補助費。公債費は借金の返済です。

物件費は、普通に見たら物買のお金やけどサービスの購入も含みます。現在7割がサービスの購入です。主に施設の指定管理です。人件費と物件費はセットで見ることが必要です。というのは、直営でやっていたら人件費ですけど、

委託したら物件費に変わるから、人件費だけを見ても意味はない。

今ずっと見ているのは一般会計です。普通会計とも言いえます。自治体は一般会計の他にいろんな会計とか持っています。ここで出しているお金は、補助費と繰り出し金と呼ばれるものです。具体的に言うと、国民健康保険とか介護保険とか後期高齢者医療保険とかありますよね。多くは社会保険の事業です。これに出しているお金は繰り出し金と呼んでいます。その他の会計、水道とか下水道とか病院とか

へ出すところが補助費等々なるのです。どっちも単体ではなりたないの、一般会計からお金を出すわけね。

補助費と繰り出し金で何が違うのか研究したら、結論は自治体の態度が違うのです。

補助費って補助してやっていくという意味合いが強いのです。繰り出し金は義務的に出している意味合いが強くあります。介護保険とか国民健康保険とかはあるのが当たり前みたいな、俺らの事業やしという感覚が強いのです。ところが、上下水道とか病院や企業局とかはちよつと違うのです。介護保険とか国民健康保険っていうのは家族なのです。家族には皆さん甘いでしょう。ところが上下水道とか病院とかは親戚なのです。だから独立採算とかいろいろ言われ、態度が厳しくなりますが財政的には一緒なのです。

最後に投資的経費、また普通建設費。普通じゃない建設費は災害復旧費ね。先ほど目的別歳出で建物建てる経費は全部に入りこんだわけね。例えば議会棟建てるのなら議会費、そして保育所建てるのなら民生費。ゴミのプラントだと衛生費やと、農道引くなら農林水産業費、普通に道路

引くなら土木費、消防署建て替えるなら消防費。それを建物だけ抜き出したのが投資的経費です。

先ほどの和歌山市と同じように田辺市も性質別歳出で見てもみましょう。人件費も結構多いかな。46団体の内4番目です、結構高い。人件費が多いのは、いろんな要素があります。例えば行政面積が広いとなると、どうしても要るようになる。国はペットボトルの大きさを人の数で決めてきますから、面積とかほとんど考慮していない。

扶助費もまあまあ、繰出金も多い。僕ら見たら、やっぱり財政厳しいのと分かります。人にかかっているというのは、福祉の経費と繰出金額、繰出金はさっき言った国保とか、介護保険とかでしょう。やっぱり福祉を必要とする住民が多いと増えるのですよ。田辺市が金あつてバンバン福祉を充実させているかとそんなことありえへんのです。今、そんなことやっている自治体はありません。実際は福祉が多いところって、やっぱり大変なのね。

(3) 歳出を見る際の注意点

歳出を見る前には注意がい

るけども、一つは身銭の話です。例えば、民生費あるじゃないですか、うちの自治体多いな。でも半分以上は、なんか他が金を出してくれていると分かります。借金はほとんどありません。借金に身銭加えているものはほとんどありません。それはなんで分かるかというと普通建設事業費が少ないから。借金は建設する時しかできへんからね。ということではほとんど国の補助金なのです。

ところが総務費や議会費を見ると、ほとんど身銭だと分かります。こういう違いがあります。借金の返済、公債費はほとんど身銭をあてますね。どこもかしこも自治体は人件費削減を徹底してきたでしょう。なんでかと言えば身銭が多いからです。人件費はほとんど身銭なのです。共産党の議員さんは、福祉はあんまり金かけてないのに、でかい公共事業やっている。これ削らんと福祉削ってどういふことやと言ってしまう。それは身銭を見てないのですよ。公共事業を削っても建物を建てるお金を削っても、身銭が出てこないのです。それは、投資的経費で使われている身銭ってわずかだからなのです。

ところが福祉とか人件費の経費ってというのは、身銭の部分がが多いのです。特に福祉で上乗せのところは、ほぼ100%身銭になるわけね。当局はこの身銭しか見てない。赤字になるという事はこの身銭がなくなることです。身銭で見た場合、何で当局はこんなに福祉を目の敵にするのかがよくわかる。しかし赤字にならなかつたらいいので、そこさえあれば、福祉残して公共事業をバーンと削っても構いません。とにかく赤字にならないことは絶対忘れたらあかん。議会活動で忘れたらあかんのはこれです。

(4) 一般会計から特別会計への支出を考える

特別会計で、水道とか下水道の料金が上がっている。大阪では民営化で交通事業もなくなっているわけです。その時に、なんとかしてほしいという議論が当然出てきます。水道料金を下げろという声が出てきます。

それを何の財源とするのかというと、一般会計から特別会計にお金を出すとなくなつてきます。それで見るとこんな形になります。一般会計があつて、別の会計、水道会計ですけども、水道料金と一般会計繰入金があります。水道料金下げろというのは、これは全体で水道使用料を減らすこと、収入不足になるという話です。それを一般会計から出したという話です。

水道料金を下げたら、住民にとつてプラスがあります。住民福祉が上がるじゃないですか。でも一般会計で、その分お金なくなるから、それで行われるサービスは減ります。じゃあこれどう考えたらいいか、この比較考量なのです。水道料金を下げることのプラスとそこへお金を回すことによる失われるサービスがマイナス。この比較考量で決まる。

今の話から分かるように、高いから単純に下げろっていう議論は稚拙だということ。だから、普及率を見るとか、その事業の持っている効果を見るとか。水道はさつき言った公衆衛生としての重要な役割があるわけ。水が使えない状態は良くないのです。公衆衛生の増進っていうのが、憲法でもちゃんとうたわれていますから。そのサービスの質とかそれが持っている役割とか、その効果というのを加味して判断することです。

4. 財政収支と財政指標

(1) 財政黒字・赤字への視点

自治体の黒字、赤字については、黒字は多かったら住民に還元しろというのが原則ね。住民は自治体を儲けさせるために税金を払っているのではない。だから黒字は多かったらいいわけでない。

(2) 基金の種類は3つ

黒字は基金の積み立てとして現れていく。基金の種類は3種類です。財政調整基金は何にでも使える。これで赤字、黒字を調整する。黒字と収支不足を調整するのが財政調整基金です。あとは全部目的があります。減債基金というのは、借金返済のために積んでいるわけです。特定目的っていうのは何でもいいのです。庁舎の建替えでも、なんかイベントなど何でもいいのです。これが基金です。

(3) 自治体財政の黒字・赤字

決算カードの右上に収支状況というのがあります。黒字か赤字か歳入総額から歳出総合を引いたらいいのです。ほんなら歳入歳出差引という数

字になります。

これがまず黒字の一つの指標です。自治体の歳出と言うのはお金が出た時だけ計上されるのです。ほかに翌年度に繰り越すべき財源がある。繰越明許費とか継続費です。それを差し引いたら本年度の本当の黒字が出てくる。それが実質収支っていうことです。

この実質収支黒字やけども、前の年度の黒字と比べてどうだろう、前の年度の黒字に比べて増えたか減ったか、減っても全然構わない。減るという事は住民にサービスを還元しているからね。

次は収入です。収入を歳入の中に入れておくのにふさわしくなかった収入がある。それが何かと言うと積立金の取り崩し、つまり基金の取り崩しです。これも財政調整基金の取り崩し。財政調整基金に積んでいるお金を取り崩すのです。そしたら先ほど見た収支はどうなるかというと、単年度で見た場合の実質的な収支は黒字でしたが、マイナスになるみたいなわけです。こういうのに何もビビることないのですよ。要は実質収支が赤字じゃないから何やつてもかまへん。ビビることはない。

問題は、ずっとマイナスが続いている時なのです。これがマイナスになるのは全然構わない、正常なのです。実質単年度収支って要するに単年度の利益が増えている、どれだけ増えているか。減っている、どれだけ減っているかなのです。黒字が増えたら住民に還元して減らさなあかん。財政で言えば、実質単年度収支は必ずマイナスになります。それが正常なのです。逆にずっとプラスというのは異常なのです。企業で言えば過去最高益をずっと上げ続けているという話です。住民サービスに還元すれば必ずマイナスになります。

でもマイナスがずっと続いているということは、財政調整基金をどんどん取り崩している可能性が高くなります。だからマイナスがずっと続いてはいけません。プラスがずっと続いてもしけないし、マイナスがずっと続いてもしけない。これを繰り返していいのが、この実質単年度収支の大切な点なのです。

廃村寸前の移住!!

先人の思いや文化を引き継ぎこの地で生きる

高野町杖ヶ藪 宇奈手一家（毅、侑子、風介）



自宅前で

高野町杖ヶ藪（つえがやぶ）地区に移住して、地域おこし協力隊としても活動した宇奈手さん一家を、九鬼、阪辻で訪ね、お話を聞きました。

移住、地域おこし協力隊になるまで

阪辻：宇奈手さんご夫婦が高野町に来るまでのお話を聞きたいのですが。

宇奈手毅：僕は京都生まれで、大学を途中でやめて、いろんな国を回り、インドやインドネシアに行ったりしました。バブルが崩壊した時期で、仕事も就職もなかった時代で、

その延長で52年間生きてきました。

宇奈手侑子：奈良の田原本の出身で、高校から書芸コースで、大学も書道コースに行かせてもらって、今に至ります。阪辻：どうしてお知り合いになったのですか。

宇奈手毅：僕が音楽をしていて、朗読と音楽のイベントに彼女が遊びに来たのです。奈良県の事業で、障がいのある人たちと、音楽や絵を描く人とのマッチング事業に僕が参加していました。

宇奈手毅：僕が音楽をしていて、朗読と音楽のイベントに彼女が遊びに来たのです。奈良県の事業で、障がいのある人たちと、音楽や絵を描く人とのマッチング事業に僕が参加していました。

宇奈手毅：僕が音楽をしていて、朗読と音楽のイベントに彼女が遊びに来たのです。奈良県の事業で、障がいのある人たちと、音楽や絵を描く人とのマッチング事業に僕が参加していました。

宇奈手毅：僕が音楽をしていて、朗読と音楽のイベントに彼女が遊びに来たのです。奈良県の事業で、障がいのある人たちと、音楽や絵を描く人とのマッチング事業に僕が参加していました。

宇奈手毅：僕が音楽をしていて、朗読と音楽のイベントに彼女が遊びに来たのです。奈良県の事業で、障がいのある人たちと、音楽や絵を描く人とのマッチング事業に僕が参加していました。

高野山で童謡ウォーク、童謡を歌いながら高野山内を歩くようなイベントをしていてそこに参加して、僕は演奏、彼女が字を書くイベントを催してもらいました。その時に、今住んでいる家の大家さんが見に来てくれて、それで高野町内のイベントに呼んでくれました。

阪辻：それは何年前ですか。

宇奈手毅：10年前ぐらいかな。今、大家さんは、高野山内に住んでいます。杖ヶ藪に一度案内されて来ました。

宇奈手侑子：そうやね。

宇奈手毅：4、5年前、奈良の生駒から移住する時、ちょうどコロナ禍やったんやな。

宇奈手毅：移住先を探していたのです。

宇奈手毅：その時に、このままやったら村がなくなると、もし良かったらここに住まへんかと言ってくれて。

僕はコロナの緊急事態宣言の前、2020年の2月頃オーストラリアへ行つて、そこで戒厳令みたいなロックダウンが出て、飛行機が止まって、帰れなくなりました。宇奈手侑子：それで、5月頃までオーストラリアの友達の家で世話になり、なんとか帰って来ましたが。

宇奈手毅：こんな状況になれば都会生活は難儀やなあと思いい、ローカルエリアに引越そうと相談しました。

阪辻：そんな経緯があつて、大家さんの紹介もあつて、こへ移住になったと。

阪辻：毅さんはいつ頃から笛を吹いていたのですか。

宇奈手毅：20年前、もっと前から吹いていたかな。インドとかにいる時に、言葉が通じなくても音楽でいろいろコミュニケーションができる。

阪辻：それと書のクラブというのは、どうするのですか。

宇奈手侑子：よくやっていたのは、朗読する友人がいて、朗読の間、毅さんがBGMを付けて、お話の最後とかに書道して締めくくるようなことをします。

あと、奉納を結構いろんなところでさせてもらったな。西大寺とか熊野本宮大社とか。

地区を消滅させず

文化継承とPRの

ミッション

阪辻：2022年から3年間、



こども園への送迎

奥さんが地域おこし協力隊員でしたが、応募した経過とかは。

宇奈手侑子：2021年に毅さんがこちらに来て、私は実家に居たので、地域おこし協力隊に、声をかけていただいた。

宇奈手毅：10年ほど前に杖ヶ敷にも地域おこし協力隊がいて、大家さんが久しぶりに募集するというので、応募したらどうやと言ってくれて。

阪辻：高野町としてのミッシヨンはどうでしたか。

宇奈手毅：それは、多岐にわ

たっていて、観光の可能性の模索、地域の整備。文化の伝承、杖ヶ敷地区のPRや振興というものでした。でも正直なところ、誰か住まないと話にならないところがあった。

て、ここを、いろんな人に知ってもらおうなことでした。

阪辻：ミッシヨンは高野町との関係で、うまくやれましたか。

宇奈手毅：これは役場との関わりがなかったら、絶対やっていけない。まず1・2キロの道が、豪雨で土砂が流れた時があつて、災害復旧をしてもらいました。それに、こども園に

子どもを送迎してくれる。これを僕らがやれば往復でおおよそ2時間取られてしまいます。

いろんな面で役場との連携は結構密にやらせてもらっています。こういう場所に住むときに、公共サービスがなかったらやっていけないところが結構あると思います。

たつていて、観光の可能性の模索、地域の整備。文化の伝承、杖ヶ敷地区のPRや振興というものでした。でも正直なところ、誰か住まないと話にならないところがあった。

阪辻：杖ヶ敷地区は高野山から車で20分程。住んでいる方は2世帯で、もう1世帯も移住者で、ひとり暮らしで高野町内に通勤している。

宇奈手毅：そうです。介護施設に入っているとか、畑の繁忙期にここに滞在する人が1、2家族いるのかな。生活拠点としているのは2世帯。僕らが来る前は1世帯もなかった。

今は、薪を作って橋本に販売する方も出てきて、少しずつという感じがかな。

阪辻：テレビ取材も来て、放映が大変評判になったようですが、どういう経過だったのでしょうか。

宇奈手毅：実は、奈良の時も演奏で『よいいドン!』のとなりの人間国宝に認定されて、2回取材を受けました。

今回は、新しい移住者として町の広報に載って、それを見て、テレビ和歌山と、NHK和歌山が最初に来たのかな。地区で60年ぶりの子どもというので取材させてもらえませんか。和歌山のおばちゃん

の番組、それと、NHK和歌山の夕方のニュース番組、それで翌年には『ナゼそこ?』

テレビ東京とテレビ朝日の『1泊家族』か、それとNHKの『小さな旅』も来てくれました。

阪辻：テレビも5社か、そのぐらいもう放映されて、結構ご存知の方もおられて。

宇奈手毅：そうですね。懐かしがってくれる人も多かったな。それと、観光センターで協力隊の中間報告で展示会をしました。書道と杖ヶ敷の写真を展示して、その時も、新聞が来てくれた。

宇奈手侑子：朝日新聞と毎日新聞かな。だから結構PRができたと思うんですけどね。

杖ヶ敷の魅力、生活することの豊かさ

先人のエネルギー

阪辻：杖ヶ敷の魅力とかは。宇奈手毅：こは、ちよつと奥地になつていたので、いい意味で令和じゃない時間の流れがあるのです。家の造りでも昭和の頃からの状態。ある種時間が止まつているように感じるというのは面白いと思うのです。ここに住むと、生活にすぐエネルギーがいる。お風呂も薪です。冬

き木をとって来ないと、冬ならお湯が沸くまで3、4時間かかる。生活に大変エネルギーがいります。でもそれが生きている実感になる。現代の経済活動優先とは違う、そういうところに、生活の豊かさがあります。不便がゆえに発見があるというのが魅力かな。

特にこれらの歴史はすごく面白いし深い。お大師さんの信仰も篤いし、ほかの神仏についてもそうやし、この村の人たちの営みは、標高差100メートル以上。いたるところに石垣を作り、田んぼや畑を造っています。ここで生きようとした人のパワーというのは、住んでみるとよくわかります。

宇奈手侑子：普通に生活している人から見たら、こんな不便なところになぜ住むのというところから、いろんなテレビが来てくれたと思うのですが、来てみたらくつくりできたとか、取材もめちゃくちゃ歩いて思い出に残る言っていたきました。

阪辻：写真家の照井さんもよく来られて写真を撮っておられる。

宇奈手毅：写真家の人はここ

ならお湯が沸くまで3、4時間かかる。生活に大変エネルギーがいります。でもそれが生きている実感になる。現代の経済活動優先とは違う、そういうところに、生活の豊かさがあります。不便がゆえに発見があるというのが魅力かな。

特にこれらの歴史はすごく面白いし深い。お大師さんの信仰も篤いし、ほかの神仏についてもそうやし、この村の人たちの営みは、標高差100メートル以上。いたるところに石垣を作り、田んぼや畑を造っています。ここで生きようとした人のパワーというのは、住んでみるとよくわかります。

宇奈手侑子：普通に生活している人から見たら、こんな不便なところになぜ住むのというところから、いろんなテレビが来てくれたと思うのですが、来てみたらくつくりできたとか、取材もめちゃくちゃ歩いて思い出に残る言っていたきました。

阪辻：写真家の照井さんもよく来られて写真を撮っておられる。

宇奈手毅：写真家の人はここ



地ビール「天空高野」のラベル

をテーマに、もう20、30年撮られていて方が多いです。
阪辻：それも、宇奈手さん家族が生活されているからでしょうね。

宇奈手侑子：廃村になってしまつたら、その生活が埋もれて止まつてしまいますが、人が住んでいると、村の時間が進んでいくというか、土地と人の歴史が途切れず、続いていくと思うのです。

九鬼：杖ヶ藪の地名の由来はどうなのですか。

宇奈手毅：杖についてお大師さんが京都から立ち寄った時に、水一杯くれへんか言うて、村人が沢まで降りて水を汲んでくると、不便やなと言うて杖をついたところ水が湧いて、ついた杖が竹藪になったとい

うぐらいやから、それはお大師さんとの関わりとかで昔の人が考えたのでしょうか。

杖ヶ藪の地域性を 生かし新たな模索も

阪辻：協力隊員として3年間、任務は終わつたけれども、杖ヶ藪がこれからこうなればいいというのはどうですか。

宇奈手侑子：もつと、この村を知つていただくツールみたいなものが増えたらいいなと思つていて、歩くのが好きな人なら、ちよつと遠いけど、高野山内から歩いて来て、この生活の端々でも知つていただける機会が持てたらと思います。

宇奈手毅：人間の生き方は、

今の都会で生活するような生き方だけじゃなく、こういったところでも生きていくということを体験してもらえることがかな。ここはそういった体験の場。緑側

でぼんやりしたりとか、そういうところでタイムスリップする場所であれば、僕は面白いと思うのです。

九鬼：10年前前に、平野町長にインタビュした時に、周辺部をどうかしたいと言つていました。

宇奈手毅：細川とか神谷地区の人らとも結構交流はしていて、今は、高野山内の一人勝ち状況ですが、NHKの方や紀伊風土記の丘の学芸員さんも、周辺集落があつての高野山だつたと言います。その認識にもう一度立ち返る。そういう意識は、少しずつ生まれていると思います。

ていく、その時の課題などは何でしょう。
宇奈手毅：そうそう、救急車は遅いですよ、こういうところは30分かかるから。水は山の水やけど水道いじれるからなんとかなるし、電気はなくても生きていけると。
あとはこういう場所でも、やっぱりお金は必要になってくる。経済活動として、僕らが出稼ぎに行けば、元の木阿弥になるから、ここで、数珠や杖に関わるものを作つたりしています。

があります。今までとは違つたような形で、神様、仏様に對してお祭りをするようなことを少し加えていつてもいいのかなと。そういうのに興味ある人とか、昔の形は変えずに、この村の人たちの思いを音楽で表現したり、書道で表現したり、絵画で表現したり、そういうふうな形を生活の中に入れていければいいと思うのですが、イベント的ではなくて、そういうふうな事をやつていきたいなと思つてます。

阪辻：侑子さんはどうなんですか。

宇奈手侑子：杖ヶ藪も含めてこの辺は摩尼荘（まにそう）つて言うのですけど、その地域の歴史を記した紀伊風土記とかあつて、それを書にして展示会ができたと思つていて、高野町内のみならず皆さんに、周辺集落のことを知ってもらえればと思つています。

阪辻：こういう取材で発行すること、地域と地域をつなげ、お互いに励まし合うとか、それが私たちの使命でもあります。今日は貴重な話を聞かせていただきありがとうございます。

宇奈手毅：ちようど今年の細川の紙の縁日と、この前、九度山町の下古沢でも蒔萱道心の紙芝居を作つて、僕がちよつと音楽して、紙芝居は奈良の友達呼んで披露したのです。それに、これは高野の地ビール天空般若の姉妹商品、今年4月に発売した新製品天空高野のラベルです。妻が書きました。

阪辻：ここに家族で住み続けます。あと下のお寺にも広場